

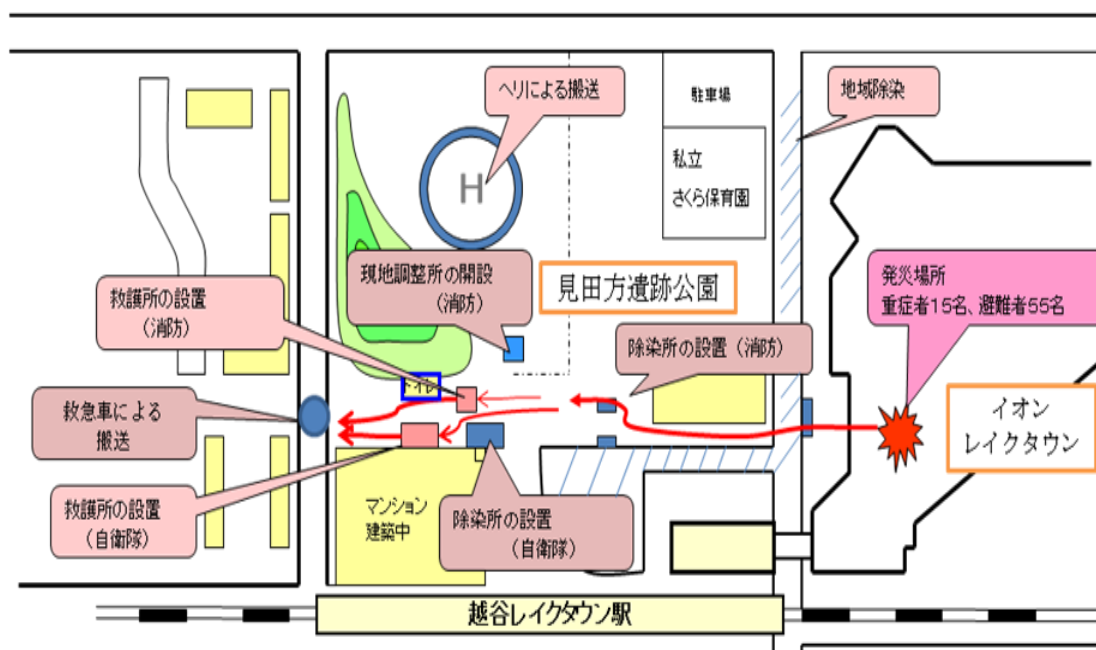
# テロ対策実動訓練（越谷レイクタウン）の実施結果について

## 1 目的

テロ発生に備えて、現場における初動対処能力の向上と関係機関相互の連携強化を図るため、市、消防、警察、自衛隊、医療機関、民間事業者と連携し、化学テロに対する実動訓練を実施しました。

## 2 概要

- (1) 実施日時 平成21年10月16日（金）13：30～  
（イオンレイクタウン、見田方遺跡公園内）
- (3) 参加機関 県、越谷市、越谷市消防本部、県警察（本部、越谷警察署）、  
陸上自衛隊（第32普通科連隊、第1化学防護隊）、  
医療機関（独協医科大学越谷病院）、  
民間事業者（イオンモール（株）、イオンリテール（株））
- (4) 参加者数 約400人
- (5) 訓練想定 イオンレイクタウン Kaze 店舗内で化学テロが発生
- (6) 訓練内容 ①避難誘導訓練 ②救出救助・応急救護・搬送訓練  
③除染訓練 ④関係機関の連携（現地調整所の開設）



### 3 今回の訓練の特徴

- (1) 県として、大規模商業施設でテロ対策訓練を実施するのは初めてであり、施設従業員も参加して、避難誘導訓練を実施しました。
- (2) テロ発生時における初動措置、応急対応について、消防、警察、自衛隊、医療機関等相互の連携を確認しました。
- (3) 通報から避難、救出救助、重症者除染、医師による救護、搬送（ヘリ搬送を含む）、地域除染まで行うなど、実践的な内容で実施しました。

### 4 訓練の状況



平成21年10月16日（金）午後1時30分、イオンレイクタウン Kaze 1階ホールで、置かれていたカバンが小爆発し、液体が飛散。付近にいた一般客が意識不明となり次々と倒れます。

異常を察知した警備員がイオン防災センターへ連絡し、防災センターから警察、消防に事態発生を通報しました。



また、イオン防災センターでは、緊急放送を流し、イオン従業員が、付近の一般客の避難誘導を行いました。

この後、警察官から内部の状況や体の異常等について事情聴取が行われます。



避難者はイオンリテール（株）が設置したバルーンシェルター内に一時避難しました。



越谷市消防本部が到着しました。消防は、イオンに隣接する見田方遺跡公園内に現地調整所、除染所、救護所を設置しました。



越谷市消防本部の検知班が、危険地域を特定し（検知）、立入禁止区域を設定するとともに、爆発物を調べます。

検知班が着用しているのは、陽圧式化学防護服です。この防護服は、呼吸用のボンベを使用し、気密性が一定に保たれているため、有害物質から隊員の身を守ることができます。



越谷市消防本部検知班によると、現場周辺からは、何らかの毒性が極めて強い化学剤が検知されたと報告がありました。



警察本部機動隊NBC部隊が到着。検体（化学剤）を密閉容器に入れて搬出します。

NBC部隊が着用している防護服は、気密一体型の化学防護服で、消防隊の防護服と同じ機能を持っています。





越谷消防本部の救助班が到着。救助班は、イオン1階のエントランスホール付近に倒れている重症者を危険地域から搬出します。



県警本部機動隊NBC部隊の救助班が到着。  
次々に重症者は搬出していきます。

県警NBC部隊が着用しているグレーの防護服は、生化学防護服といいます。マスクを付けた吸収缶で空気中の有害物質を取り除くタイプの防護服です。気密一体型の防護服と比べると軽くて動きやすくなっています。



陸上自衛隊第1化学防護隊と第32普通科連隊が到着。  
現地調整所でこれまでの状況を把握して、救出救助活動に当たるとともに、見田方公園内に避難者用の除染所を開設します。



自衛隊が重症者の救出救助に加わりました。

隊員が着用している防護服は、迷彩服の防護服は戦闘防護服と呼ばれ、警察の生化学防護服と同じ種類です。ボンベを使用せず、マスクを付けた吸収缶で空気中の有害物質を取り除きます。



イオン隣の見田方遺跡公園には、先着した越谷市消防本部が現地調整所を設置し、県警、自衛隊、医療機関などが続々と集結し、情報交換を行っています。



救護所には、越谷市消防本部のエアートtentが使われています。エアートtentは、短時間で設置ができて、簡単に移動できるため、災害救助活動の拠点として大きな威力を発揮します。



さらに、越谷市消防本部は除染所を設置。ここで、救出された重症者や活動部隊の隊員に付着した化学物質を洗い流します。



陸上自衛隊第1化学防護隊も除染所を設置。自衛隊の除染所は、中央にシャワー室があり、汚染された者が自ら洗い流すことができるため、自力歩行が可能な軽症者の除染に適しています。





担架で搬送された重症者は、除染器で化学物質を洗い流され、救急救命士や医師によるトリアージを受けます。

トリアージとは、大規模な事故や災害時の医療現場で使われる「負傷者の重傷度に応じて選別する行為」のことを指します。同時にたくさんの負傷が発生すると、治療にあたるスタッフや器具、薬剤などが圧倒的に不足します。

そこで負傷者をそれぞれの重傷度に区分けして、適切な処置や病院への搬送などの処置を行うことにより、より多くの負傷者の治療を可能にします。



重症者は担架に乗せられたまま除染所を通ります。付着した化学物質を洗い流し、応急救護にあたる医療関係者などへの二次被害を防止します。

除染液には、水や石けん液、また、家庭用漂白剤にも使用される次亜鉛素酸ナトリウムの水溶液やオゾン水が使われます。



除染所を通った重症者は、救護所に搬送されます。救護所内では、医師を看護師による応急治療が行われます。

独協医科大学越谷病院のDMATチームが訓練に参加し、救護にあたりました。



救護所で応急治療を受けた重症者は、医療機関に搬送されます。

埼玉県防災ヘリや越谷消防本部の救急車で医療機関に搬送され、本格的な治療を受けることになります。



自力歩行が可能な避難者、軽症者は、陸上自衛隊第1化学防護隊が設置した除染所で除染（本訓練では通過のみ）します。



イオンレイクタウンや見田方遺跡公園周辺では、自衛隊の除染車により、道路等の汚染物質を洗い流します。

地域の除染活動が終了し、周辺の安全が確保されたところで「テロ対策実動訓練（越谷レイクタウン）」は終了しました。